

自動車整備士足りぬ道内 若者車離れ 人材確保へ体験会、待遇改善も

会員限定記事

2023年11月8日 18:59(11月8日 23:02更新)

あとで読む



社員の説明を受けながら整備士の仕事を体験する富良野緑峰高の加藤さん



道内で自動車整備士不足が深刻化している。自動車保有台数が増加する中で、少子化や若者の車離れにより安全運行を担う整備士の減少が進んでいるためだ。有効求人倍率は上昇が続き、国土交通省は高校生らを対象とした仕事体験事業に乗り出した。事業者側も待遇改善を図るなど人材確保に知恵を絞っている。

「手元を見ながら。ゆっくりで大丈夫だよ」。10月下旬、江別市の丸金金田自動車のトラック整備工場。富良野緑峰高校1年の加藤佑麻さん（15）は、整備士のアドバイスを受けながらオイルの点検作業などをこなし、

国交省は本年度、高校生らが整備士の仕事を体験できる「カー・メカニックワークチャレンジ」を初開催。道内では計6事業所で7人の生徒らが集まった。3日間の職業体験に参加した加藤さんは「充実した3日間だった。将来の職業選択に生かしたい」と話した。

国交省が人材の確保に力を入れるのは、整備士不足が喫緊の課題だからだ。北海道運輸局によると、国家資格を持つ道内の整備士（3級以上）は2022年6月末で3733人と、約10年で200人ほど減少した。一方、全道の自動車保有台数は約380万台（23年3月末）と10年で12万台以上増えている。

求職者1人当たりの求人数を示す道内の有効求人倍率（9月）は、全職種平均が1・01倍だったのに対し、自動車整備士を含む「整備工・修理工」は4・78倍。今年20人程度の募集を行った丸金金田自動車でも定員に達しない見通しだ。北海道運輸局は「自動車整備学校の入学者も低迷している。現場では高齢の整備士が働き続けて事業規模を維持している状況」と説明する。

民間事業者は人材確保に向けた対策を急ぐ。道内各地に整備工場を持つオカモト（帯広）は、整備士の中途採用者に10万円の就業祝い金を支給する制度を本年度に導入。丸金金田自動車は、本年度から冠婚葬祭に関する特別休暇制度を設け、福利厚生を充実させている。初任給は約10年前に比べ、5万円ほど増額している。同社は「『きつい、汚い、危険』といった3Kのイメージを払拭したい」と力を込める。

札幌地方自動車整備振興会によると、企業が独自の奨学金制度を設けたり、普通科の高校にも求人を出し、就業後に整備士資格の費用を負担したりするケースが近年増えているという。同会の千葉順一専務理事は整備士のなり手不足の要因について「車が若者の憧れでなくなり、車離れが進んでいる」と説明。「電子制御装置の装備拡大により、高度な知識や技術が求められ、業務負担が増えている」と話し、整備料金の値上げに踏み切る事業者が増える可能性も指摘している。（高橋智也）



関連タグ

#就職 | 働く

#中高生

#子育て | 教育

#経済

#北海道新着

#主要ニュース